

わたしたちの山中湖は、 どのように変わったか？

議員活動の総決算 (この四年間の、議会における樋口の活動事実をご報告します。)

議会と議案

議会は何回開かれたか?.....
 定例が16回(年4回)、
 臨時が7回(随時)の23回

審議された議題の数は?.....
 4年間で約439議題を審議しました。

樋口が賛成 反対した数は?.....
 421議題に賛成し
 18議題(4%)に反対しました。

賛成した議案の中身は?.....
 教育、福祉・健康、環境、税務、条例の
 制定と改廃

反対した議案の内容と理由は?...
 交流プラザ、一の堀排水路、調整池に
 関する工事請負契約と、これが含まれ
 る予算と決算。全てに反対理由を述べ
 ており、公約と信念に基づくものです。

他の議員の動向は?.....
 高村文雄議員以外の12人は
 “オール賛成”。(チェック能力を疑う)

樋口は、定例議会の「一般質問」を、1回行いました。
 他の議員は 回、または0です。

提言と内容

今までに議会やかわら版で提案・提言してきた、おもなテーマと内容

提言のテーマ	内容	かわら版
選挙公報の作成配布を提言(*)	選挙公報に関する条例制定(*3月議会で制定)	24号
議員と議会の様子を知ろう	議会の様子をCATVで放送すれば	9号
予算と決算の特別委員会設置(*)	税金の使い方使われ方を明確に審議する(*)	30号
山中湖の第一印象を改善しよう	湖畔周辺の廃船やゴミの撤去、看板類の統一。 山中湖の玄関口を整備(旭日丘、平野、明神三叉路)	17号
景観行政団体に移行しよう	景観形成と景観保護、景観条例の制定	24、25 26号
景観資源に磨きをかけ、景観美化を	湖周辺を中心に電柱の地下埋設	
冬季観光振興事業プロジェクトの提言	全村一体とした実行委員会を設置して盛りたてる	28号
基礎客とリピーターを増やすために	山中湖ファンクラブ(仮称)の設立	17号
観光地の視察から感じたことを参考に	視察から学んだ地域活性のヒントを参考に (美の基準、修景、心からのもてなし)	29号
財政再建の成果で見える具体例	教育奨学金制度などの基金を設ける 情報インフラ(光ファイバー)の全村整備(*)	19号
行政評価システムの導入を	行政の成果を村民の目線で点検・評価するシステム	27号
第二の夕張にしないために	住民自治力を高めよう!	17、34号
安心できる公平な防災体制を整えよう	無線式インターネットの連続(いつでも、どこでも防災、 医療、観光などの情報ネットワーク体制を構築)	32、35号
里山・森林の整備を「緑の公共事業」で	暮らしの環境と動物たちとの共生を目指そう!	31号
健康創造立村になろう	村営でハイレベルの人間ドックを建設し運営 立地と環境を生かした高地医療の効用	
人材力の育成拠点になろう	教育特区(北欧F国の教育を手本に)	35号
村のグレードアップを(知の香りのする村に)	高度情報通信システムによる知的産業および 芸術や文化に関する企業誘致(主に研究機関など)	

この中の(*)は、実現できたものですが、電柱の地下埋設や湖畔の整備および景観整備などは急を要します。しかし、執行部や議員の関心が低く、今後の大きな課題です。

三月定例議会の内容報告

これでいいのか『交流プラザ経営』

初日に樋口の発言を認めず混乱した定例議会も、23日の最終日には冒頭発言を認めさせました。内容は、執行部が行った「個人情報流出問題」で、「許されない行為であり、犯罪である」ことを指摘しました。

交流プラザの18年度の売上収入(899万円)が判明
 交流プラザの維持管理費は、総額約2億4,000万円です。
 収入は、当初が約4,100万円だったものを、899万円に修正されました。

つまり、収入は予定の22%であり、運営経費は収入の2.7倍もかかったわけです。

結局、18年度一年で2億3,000万円以上の赤字(税金補填)だったのです。

交流プラザの19年度予算を発表

19年度の予定収入は3,160万円、運営費予算に1億3,430万円かけます。

つまり、19年度も1億円以上の赤字(2年間で3億円以上)を見込んでおり、野外劇場のイベント予定も現在の確定は1件だけだそうです。(樋口を区民から除名して大騒ぎした平野出身の議員たちは、どう責任をとるのか!)

ところが、莫大な赤字経営に対し、“経済効果”を云々します。しかし、予定税収は減少しており、言い訳にすぎません。

深刻なハコ物行政(補助金)のツケ

19年度予算書から、『観光施設全体の収支』を集計し報告します。

対象は、花の都(ドーム、駐車場含む)、文学の森、キャンプ場、交流プラザ、石割の湯、紅富士の湯の6施設の合計です。

全観光施設の総売り上げは?..... 4億2,900万円(総収入)

全施設の維持管理費総額は?..... 5億8,760万円

全施設の借金返済の総額は?..... 2億4,090万円

全施設の支出の総額は?..... 8億2,850万円(総支出)

差引した不足額(税金補填額)は?..... 3億9,920万円(=村民負担)



【まとめ】

全観光施設は、8億円かけて4億円の収入、不足の4億円は税金で村民負担です。(村民一人あたり、6万6,000円の負担です)

これが、補助金による“ハコ物行政のツケ”なのです。

この4億円を、教育、福祉、環境整備、新産業インフラ整備などに使えば、村民のくらしは、もっと目に見えて向上するはずですが。

ところが、予算特別委員会で、担当課長に上記の各項目の総額を問いただしても全く回答できず、樋口が予算書から計算した数字を示すと、村長自身「総額について、初めて聞いた」と驚いた回答です。村長は企業でいえば社長です。年間の観光総売り上げ額や総経費も知らず、まして損失補填総額も知らない社長や重役が経営している企業が“山中湖村”ということです。(実態は予想以上に深刻です!)

そして、19年度は、村民からの税収(26億円)の約70%が、人件費と借金返済(公債費+繰出金)に消え、残りは施設の維持管理などに消えていくのです。

次期村議会議員を志す者(多選議員も含め)や推薦する人は、この村執行部の無責任な実態を、どのように考えているのか。そして、選ぶ側の村民も、執行部や議員の資質を厳しくチェックする最大の責任があります。

樋口はこの4年間、皆さんの“貴重な税金を、ムダに使わせない”を第一のモットーに働きました。

報告会のお知らせ

お気軽にご参加ください

《テーマ》

四年間の活動報告を

4月11日(水)午後3:00~5:00

於: 情報創造館(第二研修室)